



試合の最中に突然、心臓発作で倒れたサッカー選手

<https://theconversation.com/2021/11/27/revelation-2021-high-profile-soccer-figures-players-footballers-forming-conversation-after-three-more-soccer-players-collapse-in-three-days/>

16

だとすれば、いま学校で「同調圧力」のなかでワクチンを打たざるを得なくなっている中学生も、カナリアの役割をもたされつつあるように思います。

というのは、私の主宰する研究所の一員である中学校の教師も、近く出版する予定の『魔法の「英語成句」ワークブック』編集会議に参加したとき、「自分の学校では土曜日に接種する生徒が多いので月曜日は授業にならない」と言っていたからです。

ワクチン接種を受けると体調不良になって欠席する生徒が多く、またにも授業が成立しないと言うのです。

もうひとりの中学校教師も同じことを言っていました。

ただし彼女の学校では、「ワクチン接種を学校が世話をするわけではないので各人が自分で接種を受けに行く。だから、

月曜日に欠席者が集中するわけではない。しかしワクチン接種のため毎日のように誰かが体調不良になって欠席するので、なお始末が悪い」とこぼしていました。

先述の図表やグラフを観れば分かるように、今度のコロナウイルスの致死率は、中学生ではゼロに近いのですから、そもそも彼らには危険な実験的ワクチンは不要なのです。彼らをカナリアにしてはならないのです。

それどころか、持病持ちの高齢者以外は、いわゆる「新型コロナウイルス」に罹ったとしても快復率は99・997%なのです。成人にすら危険なワクチンは不要です。まして私たちには世界に誇るべきイベルメクチンがあるのですから。

少なくとも私の近所や知り合いで、コロナやその変異株で重症になったり死んだというひとは、ひとりもないのです。他方、ワクチン接種で重症になったり死んだというひとは少なからずいるのです。

つい最近でも「2回目の接種で救急車で病院に運ばれ、死ぬかと思うほどひどい体験をした」と語ってくれた銀行関係者がいました。「1回目の接種でも高熱が出たが、今回は40度近くになり解熱剤はいつさい効かず、体が痙攣して激痛が続いたので救急車を頼まざ

るを得なかった」との説明でした。(その彼女はその後コロナに罹り高熱で入院)

このような苦しみをこれ以上、国民に与えてはなりません。

ワクチンをうったからといって、コロナウイルスへの感染は防ぐことは出来ません。それどころかイスラエルを見れば分かるように、実験的ワクチンの接種率が高い国ほど、感染率は高くなっているのです。

最近の韓国の事例も、そのひとつでしょう。

(19) South Korea: COVID Numbers Reach Record Peak Despite 92% of Adults Fully 'Vaccinated' (韓国：コロナ感染者が記録の高さに達した、大人のワクチン完全接種率が92%にもなっているのに)

<https://www.globalesearch.ca/south-korea-covid-numbers-reach-record-peak-despite-92-of-adults-fully-vaccinated/>

By Amy Melk, December 18, 2021

17

世界中がこのような事態になっているのは従来の「左翼・リベラル」と言われてきたひとたちの批判力が衰えてきたことの結果ではないでしょうか。

私の『謎解き物語2——「メディア批判」朝日から赤旗まで、私たちはガリレオの時代に戻ってしまうのだろうか』は、そのことを考察したのですが、最近、次のような論考が

現れるようになったことは嬉しいかぎりです。

(20) The Left's COVID Failure : Amplifying the crisis is no way to rebuild trust
「COVID 対応を誤った左翼——危機を増幅させても信頼の回復にはつながらない」
<http://tmmethod.blog.fc2.com/blog-entry-741.html> (『翻訳NEWS』2021/11/23)

(21) “Coerced Vaccination” : The Left's Contempt for Bodily Autonomy during the COVID-19 Pandemic. A “Gift to the Right”
「ワクチン強制接種」：左翼はCovid-19パンデミック騒動の間、「身体的自律性」の原則を軽視。それは「右翼への贈り物」？
<http://tmmethod.blog.fc2.com/blog-entry-771.html> (『翻訳NEWS』2022/01/30)

健康に気をつけている人たちは遺伝子組み換えの食品でさえ摂ることをためらっているのですから、安全が確認されたワクチンではなく「EUA（緊急使用許可）」としてしか認定されていけない遺伝子組み換えワクチン」を自分の体内に入れることをためらうのは当然のではありません。

その実験的ワクチンを自分の体内に入れるかどうかは、副作用にどのような危険性があるかを十分に説明を受け、納得が得られたときにのみワクチン接種を受けられることになります。いわゆる「インフォームド Consent」です。

自分の体は自分の意志で管理する権利をもつというのは、基本的人権のひとつです。こ

それを露骨に踏みにじったのがナチスドイツの医師団による人体実験でした。その対象となったのが主としてユダヤ人でした。

この反省をふまえて、ニュルンベルク裁判の医療版として人体実験に参加した医師たちにたいする裁判がおこなわれ、その結果として確認されたものが、「ニュルンベルク綱領」でした。先述したとおり、その後はこの綱領が医療倫理の土台となりました。

このような経緯があったにもかかわらず、左翼の先頭を走っていると自認しているはずの赤旗や長周新聞が、ことPCR検査やワクチン接種になると、政府と歩調を合わせて、その推進・拡大一点張りという状況です。

これでは選挙で共産党が少なからぬ議席を失い、他方で維新の会が大きく議席を伸ばすことになったのも、当然と言えば当然のことでした。

右記(21)の論文で、「肉体の自主管理」を軽蔑することは「右翼へのプレゼントになる」と言っていますが、これは、まさに私が『謎解き物語2』で述べてきたことです。左翼(&リベラル)の猛省を促したいと思います。

〈追記——二〇二二年の新年のあいさつ状〉

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお付き合いください。

とは言っても、コロナ騒ぎはまだまだ終わるそうにないので、あまりおめでたくない1年になりそうな気がします。が、「知は力なり」と考え、昨年はコロナと闘うべく2冊の本を出しました。

その2冊目(昨年十二月三日発売)を、いつも私にインタビュをしてくれる季刊誌IB(Information Bank)の記者Kさんに謹呈したところ、一月一日に届いた賀状のなかに1枚のハガキが紛れ込んでいました。

なんと驚いたことには、そのハガキには「Kの姉です」とあり、「弟が他界しました。連絡が遅れて申し訳ありませんでした」とありました。死因については何も書いてなく、他界した日が書いてあるのみでした。

そのKさんは季刊誌IBの記者として様々なひとにインタビュをして国際会議の記事も書いているひとでしたから、病気のはなしなど聞いたことがありませんでした。そこでハタと思い当たったのが「もしかしてワクチンの副反応ではなかったのか」ということで

した。

というのは、いま世界では有名なプロのスポーツ選手が試合中にバタバタと倒れていく事件が続発しているからです。そのほとんどがワクチンを2回打ち、帰らぬ人となるか深刻な後遺症で引退せざるを得なくなっているのです。

炭鉱で有毒ガスの危険が発生した場合、人間よりも先にカナリアが察知して鳴き声（さえずり）が止むことから、その昔、炭鉱労働者がカナリアを籠に入れて坑道に入ったそうです。

が、今やプロのスポーツ選手が私たちのためのカナリアになりつつあるのででしょうか。それを知ったのは、かつて述べたように、オンライン誌『GlobalResearch』（2021/12/10）の次の記事からでしたが、幸いにもその邦訳が昨日の『翻訳NEWS』に載りました。

* Have Professional Athletes Become the Canary in the COVID Coalmine?
<https://www.strategic-culture.org/news/2021/12/10/have-professional-athletes-become-the-canary-in-the-covid-coalmine/>
「プロスポーツ選手たちは COVID とらう炭鉱のカナリアになってしまったのか」
<http://ummethod.blog.fc2.com/blog-entry-751.html>（『翻訳NEWS』2022/01/02）

私はKさんの突然の死を「ワクチン死ではなかったのか」と疑った理由がもうひとつあ

ります。それはやはりオンライン誌『GlobalResearch』(2021/12/30)の次の記事を読んできたからです。

* Bhakti Burkhardt pathology results show 93% of people who died after being vaccinated were killed by the vaccine
<https://www.globalresearch.ca/bhaktiburkhardt-pathology-results-show-93-of-people-who-died-after-being-vaccinated-were-killed-by-the-vaccine/5765859> By Steve Kirsch, December 30, 2021

というのは、その記事は「著名な病理学者バクデイ博士(Bhakti)とボークハート博士(Burkhardt)による解剖研究によると、ワクチン死ではないと認定されたひとを解剖した結果、その93%がワクチン死だったことが判明した」と述べていたからです。

拙著『謎解き物語Ⅰ』でも紹介したように、WHO(世界保健機構)は以前から「コロナで死んだひとの解剖をするな」と世界各国に指示していましたから、コロナ関係の死者が解剖されることは稀まれですが、上記の二人の研究者は、このタブーに挑んだわけです。

これを読んで改めて、WHOがなぜ「コロナで死んだひとの解剖をするな」と世界各国に指示したか、その理由が分かったような気がしました。解剖するとコロナ関係の死者のほとんどは「持病が原因か、ワクチンが原因である」ことが分かってしまうからなのではないでしょうか。

Kさんの死も何が原因なのか、大至急、調べてみる必要がある——そんなことを思わされた新年の幕開けでした。

〈本章のキーワード〉

南ア共和国、オミクロン株

南ア医師会の会長アンジェリク・カチア博士 (Angelique Coetzee)

バリー・シャウブ博士 (Barry Schoub, ワクチンに関する南ア政府の諮問委員会委員長)

国際オリンピック委員会バッハ会長

オリンピック選手村にコンドームを16万個も配布

黒川弘務・元東京高検検事長

イギリスの葬儀屋ジョン・オルニー

元ファイザー副社長のマイケル・イエードン博士

「ニュルンベルク綱領」、ICC国際刑事裁判所への提訴

CDC (アメリカ疾病管理予防センター)、二〇二二年二月末にPCR検査を廃止

「コロナという炭鉱」のカナリアになったプロスポーツ選手!?